

1. 環境教育の目標

藍島の自然環境や環境問題について関心や知識をもち、環境との関わりについての総合的な理解と認識の上に立って、環境に配慮した行動のできる技能や思考力、判断力を身につけ、持続可能な社会の構築を目指してよりよい環境づくりに主体的に参加し、環境への責任ある行動をとることができる態度を育成する。

2. 環境教育の指導の重点

- 本市が環境未来都市として誇れる資源（ひと・もの・文化・自然）を「ふるさと力」として捉え、「北九州市環境教育プログラム」を活用しながら環境教育を推進する。
- 次代を担う子ども達が、ふるさとに対する理解を深めるとともに、ふるさとへの愛着・誇り（シビックプライド）を醸成するよう指導の充実を図る。

3. 環境教育についての構想

学習指導要領に基づく学習において

各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び、特別活動それぞれの特質等に応じ、全ての教育活動を通して行う。

教科の特質を生かした環境教育

- 各教科の指導の中に環境保全に関する指導項目を明確にし、指導する。
- 社会科、理科、家庭科、生活科、体育科といった環境教育に直接関わる内容をもつ教科だけでなく、他の教科においても言語活動や数理的、音楽的、造形的な活動を通して、環境に対する豊かな感受性や見識をもつ子どもを育てる。



環境や自然と人間との関わり、環境問題と社会経済システムの在り方や生活様式との関わりなどについて理解を深めさせる。

学校の特性をいかした取組において

子どもの実態に応じ藍島の特性を生かし、体験を通した環境教育の取組を総合的な学習の時間や生活科等を活用して行う。

体験を通した環境教育

【生物多様性】

- 本市及び藍島の自然の特性を生かした活動
- ・全学年 河内小学校交歓会
- ・全学年 スナメリウォッチング
- ・5, 6年 ひびき灘水質検査
- ・1, 2年 生活科「藍島マリンワールドをつくろう」
- ・全学年 総合・生活科「藍島の魚を釣り、干物を作って食べよう」

【低炭素・循環型社会】

- 本市の環境関連施設を活用した活動
- ・4年生環境体験科活動においてエコタウンや環境ミュージアム見学
- ゴミの排出を抑制する3R活動
- ・全校児童と年長者が協力して島内清掃活動
- ・4年生社会科白州灯台清掃活動



環境の保全やよりよい環境の創造のため主体的に取り組む態度や能力を育成する。

## 4. 環境教育の様子

### ○ スナメリウォッチング

藍島周辺の海には、スナメリという小さな鯨が生息している。スナメリは、体長 1.4m～1.7m、体重 50～60kg の鯨の仲間である。背びれがなく、丸い頭で白っぽい色をしている。このスナメリについては、海ノ中道マリンワールドの岩田先生に講師として来ていただき、スナメリの生態やスナメリが生息できる海の環境について学習する。また、保護者に漁船を出していただき、船上からスナメリを観察する。今年度は、マリンワールドと映像を中継させ、スナメリの様子を見ながら、飼育員さんや講師の先生の説明を聞くことができた。「スナメリがいるということが、餌となる小魚がいるということ、水質が良いという環境であるということを証明しています。」という話に、子ども達は、藍島の周りに広がる海の環境について認識することができた。



『漁船に乗って出発』



『スナメリを捜索中』



『今回はスナメリを運良く発見』



『講師の先生からスナメリの骨格についても学びます』



『マリンワールドのスナメリがテレビに映りました』



『マリンワールドの飼育員さんからの説明』

### ○ 響灘水質調査

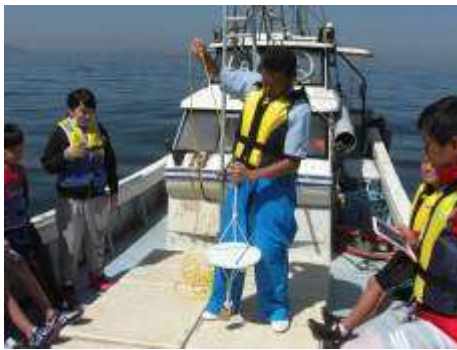
藍島の周りに広がる海は、響灘である。子ども達にとって海は、あまりにも身近にあるため海の環境や水質等についてはほとんど気にしたことはない。そこで、5、6年生は、海に出て約 30cm の白い円盤を船上から降ろしていき、どこまで確認することができるかで、海水の透明度を調べた。今回は、約 8.6m のところで海底に到達したが、十分確認することができた。まだまだ、下に降ろしても見えそうだったので、子ども達は残念そうだった。この結果、かなり透明度の良い海であることが分かった。また、プランクトンネットで、海の中にいる小さな生物を採取して、学校に戻りその様子を観察した。



『白盤をゆっくり沈めます』



『どこまで見えるかな』



『講師の先生から、プランクトンネットについての説明』



『プランクトンネットで海水を採取』



## ○島内清掃活動

藍島老人会の方々と一緒に、自分達のふるさとである藍島の清掃活動を計画的に行い、島内の美化に進んで努めたことで、自分達の住んでいる藍島を美しくすることができた。活動の実施日を1学期は「ふるさと運動会」、2学期は「ふるさと学芸会」、3学期は「ふるさとマラソン大会」の前に設定した。このことにより、「藍島に来られる方々に気持ちよく過ごしてもらい、きれいな藍島を見てもらおう」と、意欲的に清掃活動に取り組むことができた。また、ごみを拾い集めるという活動をするすることで、その量の多さに気付き、ゴミを捨ててはいけないことを再認識することができた。さらには、ふるさと「藍島」を愛する心情を育てることができた。

### 28年度の実施日

1学期：	6月	1日	(水)
2学期：	10月	25日	(火)
3学期：	1月	31日	(火)



『みんなで力を合わせてゴミを拾います』



『年長者の方々と一緒に』



『集めたゴミの一部』



『6年生と1年生が協力して』

## ○白州灯台清掃活動

白州灯台は、一生を灯台造りに捧げた岩松助左衛門の努力によってできた。約二百年前に小倉に生まれた岩松助左衛門は、藍島の北西1kmのところにある白州付近に広がる浅瀬に、近くを通る船が乗り上げないように、灯台造りを発案した人物である。助左衛門の存命中は完成しなかったが、明治政府が引き継ぎ、1873年に白州灯台は完成した。白州灯台造りに一生を捧げた岩松助左衛門について、子ども達は、4年生社会科 単元「昔から今へと続くまちづくり」において学習する。その中で、地域の人々の生活の向上に尽くした岩松助左衛門の働きや苦心が、地域の人々の生活向上に大きな影響を及ぼしたことを考えていく。実際に、子ども達は、藍島から船で白州灯台に渡り、灯台を見学したり、その周りのゴミを拾い集めたりした。この白州灯台見学・清掃活動により、この周りを航行する人々の安全を守る灯台の大切さや灯台造りに努力した岩松助左衛門の功績を実感することができた。また、灯台の周りにゴミが散乱ないように引き続き守っていかないといけないという態度を育成することができた。



『白州灯台に向けて出発』



『白州灯台』



『海難事故で亡くなった方の慰霊碑』



『海上保安庁の方からの説明』



『灯台の上から見た藍島』



『灯台の中を見学』



『灯台の中を見学』



『白州灯台の周りをみんなで清掃。ペットボトルのゴミが一番多かったです』



### ○藍島の魚を釣り、干物を作って食べよう

すぐ近くに自然のアジがいるということ。そのアジを食べることができるということ。これらのことは、子ども達は当然のことに感じているが、実は、藍島は自然豊かなところ、環境に恵まれたところということである。そこで、自分達のすぐ近くにある藍島の海の素晴らしさに気付かせ、藍島の海を大切にすることを育てることをめあてとして、ふるさとの海の恵みであるアジを釣り、干物にして食べるという活動を行った。



『藍島の港の中で、アジを釣ります。釣った魚は、自分達で、さばきます』





『さばいたアジを干します。2, 3日干すとアジの干物の出来上がりです。すべておいしくいただきました』

